

令和4年度 学校評価				
担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
本年度 重点目標	1. 全校生徒の学力向上【授業最優先・分かりやすい授業の展開】			
	2. ICT教育の強化			
	3. 授業改革と教員の授業力向上			
	4. 挨拶と礼儀を重んじた明るい生徒の育成			
	5. 校内環境の整備			
	6. 姉妹校との高大連携と進学促進			
	7. キャリア教育とインターンシップの強化			
	8. 部活動の活性化と強化及び安全管理と事故防止			
	9. いじめ防止対策、長期欠席者の迅速な対応			
	10. 教員の生徒募集に関する意識の向上			
	11. 教職員としての意識向上・健康管理、教職員間の信頼関係			
	12. 地域との連携・交流の推進			
	13. 生徒・保護者との信頼関係構築			
	14. 新型コロナウイルス感染症の感染予防			
教務	・学力向上	基礎学力指導の実施	A	基礎学力向上へ向けて、基礎学力小テストの実施や実力試験(基礎学力診断テスト/到達度テスト)の事前指導で学習への動機づけや事前学習に取り組みさせることができた。今年度は英単語小テストと漢字小テストの全小テスト合格者を1年2年の修了式に表彰した。生徒にとって今後の学習への動機づけとなった。 教職員の研修として、今年度は「ICT機器活用」「いじめ対策」「教育関連企業講師による講習会」の教員研修会を実施した。 来年度は新学習指導要領が2年目となり、2年進学コースでは理系・文系での授業が始まることをふまえ、教科主任を中心とした教科単位での授業方法・内容等の共有と確認、全体改善を目指す。 来年度も、全学年全クラスの生徒が利用するスタディサブ・ロイノートスクールを軸としたICT教育と授業アンケートなどのICT活用を促進したい。
		実力試験の有効活用	A	
		学習習慣の定着	B	
	・授業改善の取り組み	研究授業・授業アンケートの実施	B	
		保護者対象公開授業の実施	C	
		校内研修の実施	A	
		教科会の活性化	B	
	・業務の効率化	教務内規等の検討・策定	C	
		手引等書類の充実	C	
情報管理	・学内コンピュータネットワークの 運営・保守・管理を行う	ネットワークの保守・管理	A	ネットワークに関しては校内LANの整備を進めており、順次改善に向かっている。サーバー類に関しては、障害が発生したときに早急に対応して復旧させた。容量についても拡張と修正を検討中である。新規システムの検討・更新については教員用タブレットの導入や教務システムの入れ替えなどが行われ、機器やシステムの保守・管理を行い、それに伴いマニュアルなどが作成された。教務システムの入れ替えにより配信メールの活用も活性化した。ホームページにおいても日々更新されており、外部に鮮度の高い情報を提供している。
		サーバー類の保守・管理	A	
		情報機器の保守・管理	A	
	・情報機器の活用のための ガイドライン・マニュアルの整備を行う	各種ガイドライン・マニュアルの作成、整備	A	
		一斉配信メールの活用	A	
	・既存のシステムの活用および 更新の検討を行う	ホームページの活用	A	
		新規システムの検討・更新	A	
総務	・校内環境の整備	設備・施設の管理・営繕および正しい利用法の啓発	A	コロナウイルス感染予防のため各教室に備えた加湿空気清浄機・サーキュレーター・二酸化炭素濃度測定器等の衛生設備の充実、教室やトイレの手消毒液設置、トイレ掃除用には使い捨てのビニール手袋やアルコールウェットティッシュの用意など、引き続き美化環境を整える事に努めた。また、SDGsの目標を意識した取り組みとして、生徒がゴミの分別回収方法をしっかりと理解し、実践できるような指導を心掛けた。式典・行事等については、今年度も感染予防対策を講じながらであったが、工夫を凝らして実施できた事も増えた。入学式や卒業式の保護者参列は人数を制限せざるを得なく、校内への立ち入りも控えて頂いたが、生徒を待っている時間を利用して動画によるメッセージを発信するなど、新しい取り組みにも挑戦できた。避難訓練についても、全校生徒が一斉に体育館に集合することはできなかったため2班に分け行い、待機時間は教室で動画鑑賞により災害への備えについて考えさせる事ができた。今後の課題としては、より実践的な訓練の実施を考えていきたい。また、感染予防のため教室においては四方向の窓・扉を開ける必要があったため、エアコンの使用状況としては芳しくない現状があったが、感染対策にも変化が期待できるため、今後は省エネにも努めていきたい。
		環境美化の徹底	B	
		廃棄物の減量とリサイクル意識の向上	B	
	・衛生的な校内施設の利用啓発	適切な備品・消耗品の調達と修繕	A	
		経費削減(省エネ・節約)	B	
	・経費削減の啓発および具体的な実施	式典の計画・実施及び改善	A	
		次年度行事予定の見直し・調整	A	
	・非常時における危機管理意識の向上	避難訓練の計画・実施	B	
	進路指導	・進路への位置づけ	各学年に適した進路ガイダンスの実施	
『進路の手引き』など内部・外部の情報誌を有効活用			B	
保護者対象進路説明会などでの進路情報の提供および姉妹校入学の特典の周知			A	
・進路未定者の減少		職業観を高めるためのインターンシップの実施	B	
		進路を考える材料としての適性診断の複数回実施	A	
・姉妹校への入学者増		キャリア教育の推進	A	
		入試改革に向けた情報の提供と対策強化	A	
・正社員雇用内定率の向上		変化する入試情報の提供	A	
		各学年、担任による複数回の個人面談の実施	A	

生徒会	・行事の円滑な運用および主体的参加者の増加	コロナ禍での学校行事の在り方を考えるとともに、より多くの生徒が学校行事に主体的に参加することを旨とする。	A	コロナの影響で学校行事の実施が難しいため、安定的に実施できるようオンラインによる文化祭の実施を今年度も行うことができた。
	・生徒会活動と各委員会の活性化	週一回の生徒会定例会と、生徒会新聞の発行による情報発信と生徒会研修生・実行委員の積極的な育成と生徒による自治組織の運営	B	また、文化祭の企画や立案を生徒中心に移行して生徒中心での文化祭を実施することができた。
	・部活の活性化	持続可能な部活動への予算配分による部活動の活性化	A	予算面に関しては部活動への予算を増加させることで部活動の活性化を促し、生徒会活動をより活性化させるために貸し出し用の備品の充実や、パソコンやプリンタなどの活動環境を整備した。
	・ボランティア活動の推進	あいさつ運動や校外美化清掃やボランティア活動への参加	B	残念ながら、生徒会での挨拶運動の実施は見送ることとなったが校外美化清掃の実施、ウクライナ募金の実施を行うことができた。
生活指導	・常に菊華高等学校生であることを自覚し、行動できる生徒を育てる	挨拶の励行、ルールの遵守、基本的な生活習慣、安全指導等、生徒の社会性の向上を図る	B	朝の挨拶や授業開始時の挨拶の敢行を重点課題としていたが、まだまだではあるが年度初めより生徒が挨拶をするようになった。また、交通安全への意識は確実に高まり朝の交通マナーは各段によくなった。まだまだ、自分中心のところがあり、他者への思いやりは希薄ではあるが、繰り返し教えれば良化すると考えられるため、継続的に指導していきたい。
	・交通安全指導の充実	自他の権利を理解し、お互いに思いやり共生する心の育成	C	
健康管理	・日常の健康観察	保健室の利用状況の把握	A	保健室来室、利用した生徒の中でも担任は勿論、必要に応じて、保護者への連絡もきちんと担任と連携をとり対応することが出来た。
		新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について	A	新型コロナウイルスの対応として、去年に引き続き、感染予防対策の徹底を行いながら、変更されるコロナ対応基準に従い学校で対応できたことで、様々な行事なども少しづつ復活することが出来た。
		カウンセラーの活用	A	また保健室来室をきっかけにカウンセラーに繋がったり、カウンセラーに繋がらなかった生徒のことも、対応法を相談し活用することが出来た。
渉外	・募集定員の入学者数(特に推薦受験者)確保	新設したコースを中心に、各学科・コースの入学者数および推薦受験者数の増加	A	昨年度、新しく学科・コースをリニューアルしたこともあり、今年度もその影響で昨年度よりは厳しいものの推薦受験者数の確保と一般受験者数の増加があった。その要因としては、推薦受験者数は春日井市・守山区・北区を中心とした、近隣協力校からの受験者数増加があり、一般受験者数は、その近隣協力校にプラスして尾張旭市・瀬戸市が多かったためである。今年度も募集定員を確保できたことは嬉しいことだが、既存のコースごとの定員を確保がかなり厳しい状況であることは、今後の課題である。また、本校を一般入試で受験するレベルの受験生は、公立高校への入学がかなり入り易くなっている状況にあるため、一般入試での歩留まりが厳しくなっている。そのためには、ホームページやパンフレット等募集アイテムのさらなる充実と体験会等の行事での教育内容や学科・コースのPR活動が必要であり、行事の参加者数および特に推薦入試での受験・入学者数増が必要である。今年で4年目になる特別専願入試を実施したことにより、入学者数確保も可能であるため、今後も継続して実施していきたい。
	・募集アイテムの充実	認知度を高めるため、ホームページの充実を中心に学校紹介リーフレットと学校案内パンフレット等の充実および活用(各学科・コースのPR強化)	A	
	・渉外行事の充実	体験会・説明会等の行事への参加者数増加および参加者への満足度(内容の充実)からの受験者数増加	A	
いじめ防止対策	・日常の観察	アンテナを高く持ち問題を感じたら、学年主任へ報告。学年で問題を精査し、必要であれば、いじめ防止対策委員会へ報告	A	・問題発生時の備えは十分にできているが、SNSでの問題発生が多みられるようになってきているので、その発見が難しくなっている。
	・問題の緊急性に関する対応	激しい誹謗中傷、暴力など早急な対応が求められる事案に関しては、即いじめ防止対策委員会を招集し、対応を協議	A	・各担任、各学年が早期に問題を発見し解決にあたったので、大きなトラブルまでには発展しなかった。
	・アンケート、スクールカウンセラーの活用	問題の全貌を知るためにアンケートやクレベリン等を実施したり、スクールカウンセラーとのカウンセリング活用で被害者、加害者共、心のケアにつとめる	A	・スクールカウンセラーとの連絡を密にし、ご指導を仰ぎながら問題の解決にあたった。
事務	・サービス部門と位置づけ、内部・外部に対しサービス精神をもって業務に取り組む	電話・来客対応を通して学校のイメージ向上への貢献内外に対する親切で行き届いた対応	A	・電話、来客対応等については、常に迅速かつ丁寧な対応を心掛けることができた。
	・事務室と職員室との連携強化と相互協力の推進	確実な情報伝達(ホウ・レン・ソウ)をモットーに、組織のスムーズな運営への寄与	A	・教員と事務職員との間で、相互に連携協力できるようなうめた結果、大きなトラブルは発生しなかった。
	・公的補助金獲得の最大化	就学支援金・授業料軽減等の対象生徒の申請100%達成補助金制度に精通し、的確な申請にて取りこぼしを防ぐ	A	・公的補助金については、生徒に対する就学支援金・授業料補助金はもとより、コロナ対策、ICT関係の補助金の獲得に努めることができた。
	・予算管理の的確化	学園全体の制約の中で、学校経営に依る予算の立案及び適切な執行管理	A	・令和4年度予算については、コロナ対策を推進するため、国・県の新規補助金を獲得できるよう学園本部との緊密な連携を図り、予備費の活用等の臨機応変な対応をとることができた。
	・出納業務の標準化・効率化	校費・PTA・後援会・同窓会等の申請・出納・実績管理の標準化・効率化	A	・校費等の出納業務については、正確性の確保を重点として取り組むことができた。
	・積立金管理における的確な対応	学科別・コース別・個人別に積立金の執行管理を行う中で、的確な対応を行う。	A	・積立金管理については、学科別・コース別・個人別に管理しているため、個々人の状況に応じて事務処理が複雑となるが、的確に対応することができた。